

The Systemization of the Language Laboratory
and Our Self-Instruction Room
in Miyazaki Municipal University
--Through the Research on the Advanced Universities of the LL--

*Shigeru TAKENO

*Department of Intercultural Studies, Faculty of Humanities,
Miyazaki Municipal University

Abstract

It is important for the students to learn languages voluntarily in the language laboratory (the LL) and our self-instruction room (the SI room).

In this article the author considers what the LL and the SI room should be, and how we should systemize the SI room as an audio-visual library and considers how effectively learners should use the SI room for language learning.

First, in order to grasp what the students of our university think and how they use the SI room, the author gave them 2 questionnaires (one in May and the other in July). Through the results of these questionnaires, the author was able to find some information. As a result of the questionnaires and the statistical analysis of how the students used the SI room, there are three points to consider. One is the need of the orientation for the students to use the SI room and another is to motivate the students to learn languages in the SI room and also to grasp the students' ability through the communication with the other English teachers and all other students.

Second, the author visited 14 universities for a research on the LL and the SI rooms of other universities. From my research, our university needs more staff and equipment to be installed to finish the systemization of the SI room as an AV library. I am indebted my colleagues at other universities who have given information to complete my task.

Lastly, the SI room should have a CALL system (that the author doesn't mention in detail here) in the future plan of the SI room.

本学LL自習室のライブラリーシステム化

—先進校の実態調査をふまえて—

竹野 茂

1 はじめに

今日、語学学習は、時代の要請とも言える学習熱の高まりのなかで、その環境が飛躍的に整備されつつある。多種多様な教授法、学習法あるいは語学学習教材、語学学習機器など、これほど語学学習のチャンスに恵まれたことは未だかつてなかったであろう。特に、語学学習機器については、まさに日進月歩の勢いであり、CALL (Computer-Assisted Language Learning) システムまでが登場し、主流になりつつある。CALLシステムは、語学学習のための非常に進んだシステムである。語学学習は唯一のシステムで完結するものではありえず、多種多様なメソッドを用い、様々な経験・体験から、文化とともに習得されるものである。その意味において、旧来からのLL (Language Laboratory) について、特にLL自習室の今日的な在り方を再検討することはまた意義のあることと考える。

これまでのLLに関する論文は、主として教授法、授業における機器の取り扱い、教材に関するものなどが多く書かれているが、LL自習室の利用に関して論じられたものは、非常に少ない。最近になってソニーLL通信 (170号, 171号) に掲載された九州LL研究会の発表は、筆者にとって目新しいものの一つである。幸いにも、本学は新設の大学であって、LL教室のみならず小規模ながらLL自習室が設置されている。学習者のLL自習室の活用に関して、筆者は腐心しているものである。以上が、LL自習室の機能的・効率的な運用方法を研究するに至った理由である。

学習者にとってLL自習室とはどのような意味を持つものか、LL自習室をどのようにシステム化し、提供していけば、学習者の効率的な語学学習に役立つかということ考察する。

考察方法は、主として以下の二つの方法による。一つは、論文としての発表こそ少ないが、多くの大学・短大でLL自習室が設置され、活用されていると思われるので、LL先進校でLL自習室やLL教室が学習者の自習のためにどのような運用がなされているのか視察し、本学の参考にす。幸いに14校の大学・短大から視察の機会を与えていただいた。その折、ハード・ソフト両面に渡っているいろいろな示唆や提案をしていただいた。

二つめは、LL自習室とは、学生の自主的な活動を保障する場でなくてはならない。そこで、学生の意識・要望などを把握するためアンケートを実施し、分析・考察する。

そして、本学の実態を踏まえ、大学・短大の視察の成果を加味し、またLLA (Language Laboratory Association) の大会での成果などを交え、本学におけるLL自習室の将来の在り方、課題を探っていく。

また、LL自習室が所蔵しているソフトウェアの整理・分類についても論じる。

2 本学の実情

I 施設・機器

まず、本学のLL教室およびLL自習室が、どのようなものであるか説明しておく。本学のLL教室は、2室あり、それぞれ60のブースと、2ブースに1つの割りで30台のモニターを備えている。LLコンソールの機種は、2室ともソニーLLC-9000を導入している。それぞれのLL教室に周辺機器として、教材提示装置、VHSビデオデッキ、8ミリビデオデッキ、レーザーディスクプレーヤー、キャプション装置、マルチスキャンプロジェクター、電動スクリーン各1、室内音響システムを備えている。またLL自習室に備えている機器は、LL用テープレコーダー11台、ビデオデッキ3台とそれぞれにモニター、レーザーディスクプレーヤー1台と

モニターである。3台のビデオデッキと1台のレーザーディスクプレーヤーにはそれぞれキャプション装置が付いている。これらの機器の効果的活用については、他大学の状況を交えて、後段で考察する。

II-i 学生の実態（アンケートより）

本学の学生の実態を把握するために、全学生212人を対象にアンケート調査を2回おこなった。LL自習室利用の状況の記録を参考に、本項では本学学生の実態を分析する。

ア) アンケート1

実施時期：5月初旬

調査目的：LL学習に対する本学学生の意識・実態を把握する

調査内容：①LL学習の経験

②LL学習に対する意識

③LL自習室の利用についてなど

回収率：75%

調査結果：

① 本学学生の出身中学校に「LL教室がある」と答えた学生は28%（「ある」と答えた学生のうちLL授業を受けた学生56%）、出身高校に「LL教室がある」と答えた学生は54%（「ある」と答えた学生のうちLL授業を受けた学生40%）。[質問1, 2, 5, 6の回答より]

しかし中学校・高校でLL授業を受けた学生も充実した授業を受けたものは少なかったようである。[質問2-ウ, 6-カの回答より]

中学校でLLの授業が必要（絶対に必要、あったほうがよい）と答えた学生が、89%。高校では、88%の学生が必要があるとしている。否定的な回答は、1%に満たなかった。[質問3, 7の回答より]

中学校・高校でLLの授業が必要と考えている学生に理由を問うと、「早くから正しい英語の発音に慣れるため」「早くからリスニング力を鍛えておく必要があるから」「実用英語を身に付けるためには必要だから」などという答えが大半を占めた。[質問4, 8の回答より]

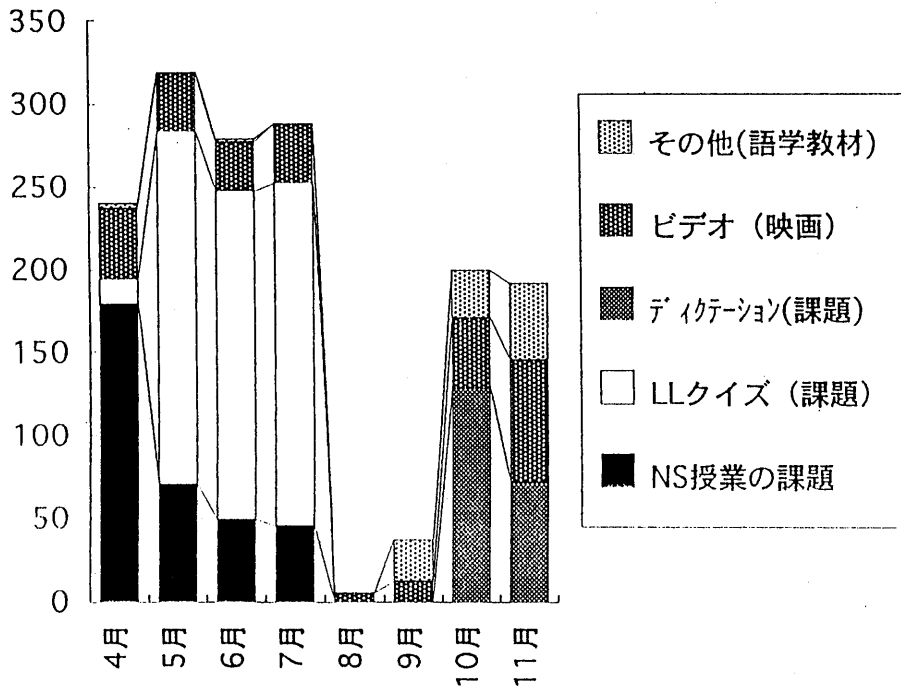
しかし、このように聞いて話せる英語（いわゆる実用英語）の必要性を認めながらも、「今の日本の受験制度ではLL授業があっても、受験にはあまり役に立たないと思うので、”絶対必要である”とは言えないが、私としてはあった方がよいと思う」とか「時間に余裕があれば、あってもよいと思うが、初めての英語の授業でたいへんだからなくてもよいと思う」というような回答に見られるように、一方では受験体制の中での中学校・高校では、読解・文法中心の英語（いわゆる受験英語）で仕方がないと感じていることもわかった。[質問4, 8の回答より]

② また、大学でのLL授業の必要性に関する質問には、93%の学生が必要であると答えている。[質問9の回答より]

その理由として、「受験を終えて実際に使える英語を身に付けたい」という主旨の回答が80%近くを占めている。[質問10の回答より]

③ 以上のようなことは、ここまで明確に回答として現われるとは思わなかったが、多少予測できた。そこで、5月までの段階ではあるが、受験英語から解放された学生がどのように、LL自習室を利用しているかということについて質問してみた。その結果、積極的にLL自習室を利用している学生は16%、必要に迫られて（例えば与えられた宿題をするために）利用している学生は58%であった。[質問11の回答より] また、その後のLL自習室利用状況の記録からは、そうした実態が、少しは改善された感もあるが、依然として11月現在も続いたままである。（図表1参照）

図表1－目的別利用状況



*注 図表1の中のNSは、Native Speakerの略。

これらの結果から、多くの学生が音声中心の英語習得の必要性を認めながらも、実際には「与えられた宿題をする」という受け身の形でしか、LL自習室を利用していないことが推測される。

これは、自習室というものの本来あるべき利用、つまり学生の自主的な意志からの利用とは程遠いと言わなければならない。

イ) アンケート1の結果についての分析と考察

聞いて話せる英語(いわゆる実用英語)の習得のためには、できるだけ早くからLL学習が必要であると本学学生は感じている。しかし実際には、受験体制のために、中学校・高校では十分に体験できないでいるし、ある程度それを止むを得ないことと受け止めている。そして、大学に入学し、受験から解放されても、LL学習の必要性を感じながら、十分にはLL自習室を活用しているわけではない。

このことは、学生たちが、受験英語(と呼ばれる読解・文法中心の、読み、書く英語)と、実用英語を完全に切り離して考えていることの現われではないか。このことは受験英語と実用英語を有機的に結び付けるという発想にたっている学生が少ないことに特徴づけられている。つまり、学生は、「文字による英語学習」と、「音声によるコミュニケーションのための英語学習」を関連づけていないのである。本来、言語は、両者が有機的に結び付いてこそ、使える英語を習得できると考えられるが、学生は「受験英語＝実用にならない英語」と考えているようだ。文法中心の言語授業と音声中心の言語授業とのギャップを埋めるストラテジーを持っていないと言ったほうが正確かもしれない。

ウ) アンケート2

実施時期：7月初旬

調査目的：ライブラリーに備えるソフトウェア・ハードウェアの目安を知ること

調査内容：①ラジオ・テレビを媒体にした語学学習が浸透度

②自宅で語学学習に利用できる機器について

③学生が視聴を望む英語番組

④英語以外で習得を希望する外国語

⑤目指している英語資格試験（英語検定、TOEFL、TOEICなど）

⑥LL自習室への要望

回収率：65%

調査結果：

① 大学入学までになんらかのテレビ・ラジオの語学講座を受講したものは、58%であった。[質問1の回答より]しかし、大学に入学しても利用している学生は14%と極端に低くなっている。[質問2の回答より]LL自習室には、英語のラジオ・テレビ講座に関しては、テキスト・テープともに揃えてあるので、利用可能である。

② また、ほとんどの学生が、ラジオカセットレコーダーやウォークマンを持っており、学外でも学習可能であるという結果も出ている。[質問3、4の回答より]

③ 「どのようなラジオ・テレビの英会話番組をLL自習室で利用したいか」の問いに、テレビのセサミストリートが51%と最も高く、続いてラジオ英会話が36%、その他のテレビ英会話番組がそれぞれ20%台で、総じて視覚に訴えるテレビ番組の人気の高さを伺わせる。[質問5の回答より]

④ 本学では英語以外にハンゲル、中国語の授業をそれぞれ2年次から開設することになっているが、その他のヨーロッパ言語を習得したいと考える学生も10から20%いることを示している。[質問6の回答より]

⑤ 英語検定を受験したいと考えている学生は、2級・準1級・1級を合わせると73%もいる。TOEFL・TOEICは合わせて32%の学生が受けたいと言っている。これは複数回答を認めているので、正確には延べ数であるが、かなりの学生がこのような資格試験に興味を示していると言えるであろう。[質問7の回答より]

⑥ 学生の要望[質問9の回答]もあり、授業との兼ね合いもあったので、LL自習室では、開室時間を当初午前9時から12時まで、午後1時から午後17時までにしてしたが、6月下旬から、昼休み（12時から1時まで）も開室とし、開室時間を午後18時にまで延ばした。その結果、延長した時間帯での利用は多かった。ただし、時間を延長したLL自習室の運用・管理体制は今後の学生数、ソフト数の増加にともない、スタッフの不足とともにサービスの低下が予想される。

エ) アンケート2の結果についての分析と考察

コンピュータが自宅になく、OA自習室を利用せざるをえない学生の現状に比べ、ほとんどの学生が、ラジオカセットレコーダーを持ち、自宅・学外でも利用可能な状況にある。しかし、「いつでも学習できる」という気持ちがかえってなかなか手をつけられない現実につながっているようだ。また、テープ学習の単調さからか、テープ学習よりも視覚に訴えるテレビやビデオに対する関心が高い。しかし、LL自習室のビデオは3台しかないで、なかなか利用できないという状況がある。

こうした、学生の自主性を喚起しにくい実情の中で、学生の英語検定、TOEFL、TOEICへの興味・関心が高いことは、LL自習の際の動機づけとして有利に働く。理想は高いながらも、地道な努力を重ねることは、困難な様子ではあるが、こうした具体的な目標を明確に持つことは、その困難を乗り越える動機となりうるものと考えられる。

オ) アンケートのまとめ

以上、アンケート1、2およびLL自習室の利用状況の記録の考察を通して、本学学生の実態に即したLL自習室の在り方として次のような展望と課題が考えられる。

本学学生の半数程度は、何らかの形でLLの授業を受けた経験はあるものの、自習としてLLを活用した経験

は無いといってよい。また、大学においてもLL授業が全員に行われるわけであるから、LLの一斉授業はすべての学生が経験することになる。しかし、LL自習となると、課題を出され、それをこなす場所としてのLL自習室の利用に限定されてしまう。個々の学生が、語学学習に何らかのストラテジーを持っている場合は、現状のままでも有効なLL学習が期待できるが、そのような学生は、ほとんどいないであろう。そう考えてくると、まず、LL自習室の利用法を学生にオリエンテーションすることが必要になる。

本学では、英語の教員は、それぞれオフィスアワー（学生の質問を受け付けたり、あるいは学生とのコミュニケーションをはかる時間）を設けている。この時間を捉えて、学生へのLL学習を促したり、本学の特徴の一つである「基礎ゼミ」などを利用したオリエンテーションなども必要である。

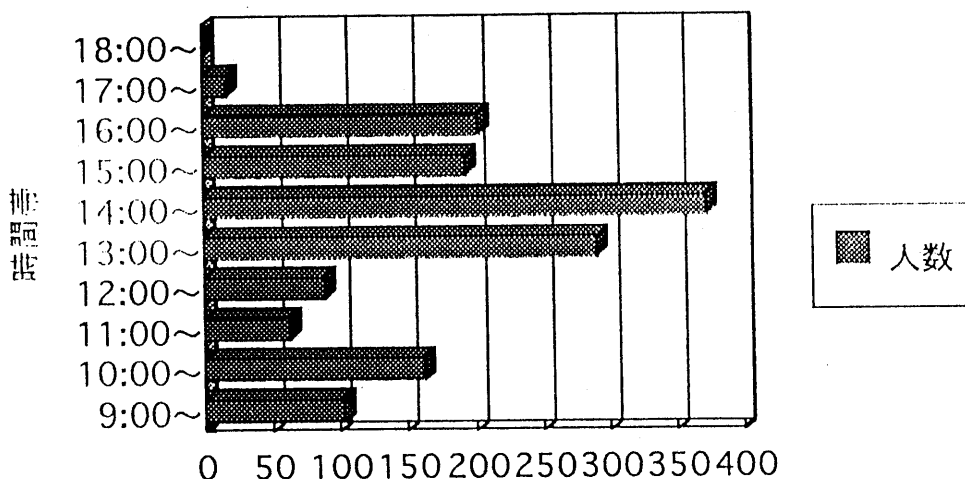
このような方法やLL自習室独自のPR活動を充実させ、LL自習室の利用法を学生に周知徹底させる必要がある。

第二に、学生に対して、動機づけが必要になる。それぞれの学生に目標を設定させることである。幸いなことに、ビデオに対する関心が高く、映画や洋楽に興味を持つものも多い。また、各種の資格試験に対する関心も高い。それを手がかりにして、学生をLL自習へ駆り立てたいのである。そのためには、LL自習室内のソフトの充実と機器の充実が必要になる。

第三に、個々の学生の到達度・語学レベルに常に関心を払い、十分把握し、学生の要求に答えられる用意が必要になる。そのためには、英語の各教員同士のコミュニケーションが大事になってくる。LL事務室との密なる連携により、学生を自主的なLL学習に導くことができると考える。

II-ii 学生の実態（統計資料より）

図表2（4月から11月末までの時間帯別利用者数）



このグラフ（図表2）は、入室時間を基準に時間帯別利用者数を出したものである。利用者が13時台・14時台に集中しているのは、授業の空き時間帯との絡みで出てくるようである。よって、この図表では分かりかねるが、曜日によっては利用者が集中する利用時間帯が異なっている。利用者の平均利用時間は、ほぼ60分である（図表3を参照）。利用者からの要望で、昼休み・午後18時までの開室というのが、アンケートにより明らか

かになり、改善した。そのことにより昼休みと16時後半から17時以降の利用者が増えてきていることが分かる。

3 大学視察調査

今年度、これまでに視察した大学・短期大学は、LLA九州支部研究大会の時に訪れた大分県立芸術文化短期大学を含め14校(15学部)にのぼる。その他の大学名・短期大学名を訪問順に挙げると、上智大学、西南学院大学、福岡女学院短期大学、福岡教育大学、広島修道大学、広島女学院大学、広島大学(教育学部・総合科学部)、安田女子大学、関西学院大学、神戸市外国語大学、同志社大学、同志社女子大学、関西外国語大学である。

調査目的は、LL自習のための教材の拡充と教材づくり、ならびにその効果的・効率的な管理・運営および整理法などを中心にした。各大学・短期大学において、本学の参考になる多くのことを学ばせていただいたり、関係職員の方々から多くの助言をいただいた。本稿では、紙面の関係ですべてを詳細に取り上げられないが、本学のLL自習室の充実のために参考にさせていただいたことをできるだけ挙げるつもりである。また、LLAの大会などで得られた成果も交えて論ずる。

ア) 機器

各大学とも歴史があり、豊富な機器とソフトを所有していることに感銘を受けた。

まず、機器の面から論ずる。ほとんどの大学で、教材作成用の機器が充実していることに、感動した。自主教材作成用のスタジオ(録音室)、音声分析装置、オーディオテープソフト編集用のダビング装置、ビデオカメラやビデオテープ編集用の装置などは、すばらしいものであった。その他、大学独自でパラボラアンテナを設置し、英語、中国語などの海外のアジア向け放送を受信し、BBCや中国の放送を学生向けに提供したり、授業でも利用しているということだった(神戸市外国語大学)。CNNについても2、3の大学で、主に昼休みの時間など、LL教室を使用していない時間に学生に開放し利用させているところもあった。CNNやBBCについては、他の大学で、その日のニュースを数本ビデオに録画し、自習室で自由に利用させている大学もあった。本学でも、数年間の計画の中で機器の充実をはかり、海外放送等の利用を充実したものにする必要性を強く感じた。

中には、授業の一環としてこれらの機器を学生自らが操作し、編集にあたり、作品を作って提出するなど、学生の自主性を育て、また授業への興味付けといった点で成功している大学も2、3見受けられた。

また、学生貸し出し用にオーディオテープを自主製作しているところもあった。あるいは、大学の授業に、自主製作の教材を使っているところもかなりあった。

イ) 自習室

全般的なLL教室の構成についていえば、いわゆるLL教室が2から3室、OA室1室(CALLシステムを持つ大学もある)、AVルーム1から2室というのが平均的なものであった。それに加えてLL自習室を持つ大学がほとんどであった。

各大学とも自習室の規模・形態としてはまちまちで、規模としては本学と同程度の大学から、図書館に所属しAVセンター的な要素のかなり強い大学、AVセンターとして独立した大学などがあつた。傾向としては、図書・情報が一体になり、その中にAVセンターが存在するという形になりつつある。

自習室の機器構成は、ビデオやLDの観賞できるブースが10から30席、それにオーディオ教材が学習できるブースが5から20席と各大学で幅があつた。

自習室は持たないが、LL教室を開放し、LL教室にオーディオ教材・ビデオ教材を備えて、授業のない時間に自由に利用できるようにした大学もあつた。この大学の場合、ビデオブースはLL教室内の後方に備えてあつた。

また、ユニークな例として西南学院大学があげられる。自習室はビデオライブラリーとしてのみ使用し、オーディオ教材の使用は授業のない時間帯にLL教室を開放しテープライブラリーサービスを行なう。その上、LL教室を使いLL語学実習という形で実習を行ない、学生に運営を任せているものであつた。これは、学生の自主性を育てる意味からも、学生のLL管理能力の育成の上からも、画期的なことである。

ウ) 自習室の利用状況

本学も含めて、自習室の利用で、最も多いのが、ビデオソフトの利用であろう。ソフトの面から言及すれば、他大学は、本学と比べものにならないほどの所蔵量を誇っている。予算面で多いところは、年間で1,000万円近くをソフトウェアの購入費に充てているところさえある。少ないところでも、年間で400万円ほどであろうか。特に、どの大学でも著作権に関しては神経質になっているようである。従って、ビデオやLDソフトはオリジナルを購入するように心掛けていたということだった。利用者が多いときは、20台から30台あるビデオデッキあるいはモニターテレビは、ほとんど満席に近かった。中には授業での課題として、ビデオ観賞、LD観賞が課せられることがあるので、授業用に数台はキープしておくということもあった。また、数名の学生が同時に同じものを観賞できるように出力を複数用意している大学が半数以上あった。これは、ゼミなどでの使用も考慮してのことである。本学でも、出力系統の増設は、比較的簡単に低コストでできると思うので、是非実現したい。また、ビデオデッキおよびモニター装置の増設は必要である。本学も、現在は1学年だけということもあり、授業等との関係もあって、利用時間にむらがあるが、ビデオ・LDのブースは、ほとんど満席である。4学年揃った段階では、現在の台数ではまかないきれないことが予想される。

オーディオのブースに関して、他大学では、授業の補完(予習・復習)に課題が課せられ、自習にLLを使うことが義務づけられ、使用状況が単位に組み込まれている大学もある。

本学でも、授業の補完としての使用はかなりある。自習室本来の学生の自主的使用という点からすると、不十分であると言わざるをえない。それでも、数はそう多くないが、VOAの録音やテレビの英会話番組の視聴をほとんど毎日欠かさない学生もいる。LL自習室を管理する者としては、このような学生がもっと増えてくれることを期待して止まない。

他大学では英語検定・TOEFL・TOEICの受験期になると、それぞれのソフトの貸し出しが増えるという聞いた。その大学は、関西にあり、これらの資格試験の受験機会に恵まれているということがあると思うが、本学でも、本学での受験機会が得られれば、これら資格試験のソフトの利用は自ずと増えていくと思われる。本学での受験に関しては、いろいろと困難な課題・条件整備もあるが、是非実現の方向に向けて努力していく必要がある。

エ) ソフトウェアの管理・運営、整理・分類・検索

ほとんどの大学のLL自習室、AVセンターにおいても、整理方法は各大学の独自の分類法が取られている。LLAの全国研究大会において発表された愛知淑徳大学のAVセンターのように、あらゆるソフトウェアをデータベース化し、AVセンターと図書館のデータベースは相互にコンピュータを通して検索可能なものしている大学は稀である。

LL自習室・AVセンター独自の分類番号を付け、コンピュータには入力しているものの、それから打ち出したデータのファイルや手書きのカードによる検索を行なっている大学がほとんどである。関西学院大学のように、図書館の建て替えに伴って、分類を統一する可能性のある大学もないではないが、まだこの分野での統一がなされている大学は少ないようである。今後の研究課題と言えよう。

本学でも、LL事務室所蔵のソフトウェアについては、図書館とは独立して、マッキントッシュアップルコンピュータを使い、ファイルメーカープロというアプリケーションソフト(データベースソフト)によって分類をしている。分類記号に関して、他大学を参考にし、本学独自のものである。今後の研究により、図書館と連携を持って、新しいシステムを開発する必要がある。

管理・運営面でも、それぞれ独自の方法を取っており、様々である。閉架式で請求カードによってソフトを貸し出す大学、まったくフリーで学生が自主的にソフトを選び、自習をするシステムを採っている大学などとまちまちである。調査校の中では、前者が半数以上であったが、両者ともにそれぞれメリット・デメリットがあり、どちらがよいとも言えない。本学では、ソフトは学生が自由に選び、利用簿に学生番号と名前、ソフトのタイトル名、入室時間と退室時間を記入させ、それを元にして、統計を取っている。本学の利用状況を統計から拾ってみよう。(図表3参照)

図表3 自習室利用統計表

月	開放日数	来室者数	利用合計時間	一人一日平均 利用時間	一日平均利用 者数	一日平均利用時 間
4月	12日	237人	181時間	46分	20人	15時間
5月	18日	305人	305時間	60分	17人	17時間
6月	20日	272人	300時間	66分	14人	15時間
7月	12日	283人	354時間	75分	24人	30時間
8月	22日	6人	22時間	218分	0.3人	1時間
9月	20日	25人	46時間	110分	1.3人	2.3時間
10月	20日	190人	193時間	61分	9人	9時間
11月	20日	177人	218時間	74分	9人	11時間

8月、9月は夏休みのため来室者数が極端に少なくなっている。7月の利用者数が多いのは、前期終了前のLLクイズという宿題のやり直しのためである。(LLの授業ではLLクイズを実施し、26点満点で20問以上の正解者を合格としたため、20点に満たない者がLL自習室を利用したことによる。)10月以降が後期である。10月、11月は、授業の空き時間を大学祭の準備のために費やした学生が多かったことによる利用者数の減が推察される。また、後期にLL授業がなかったことも理由の一つと考えられる。しかし、宿題や課題以外の利用が増えていることも指摘できる。(図表1—目的別利用状況を参照のこと)

管理・運営面で、重要な要素はスタッフである。比較的小規模な自習室を持つ大学では、スタッフが1名というところもあったが、大抵は3名以上であった。特に閉架式にしている大学では、スタッフの人数は3名から5名というのが多かった。管理・運営を機能的・効率的に行なおうとする場合、スタッフの人数がかなりのウェイトを占める。本学では、LL助手1名、嘱託員1名の計2名で、管理運営にあたっている。しかも嘱託員は午前9時から午後4時の勤務で、午後4時以降は、1名の体制になる。両者ともLL自習室専属という形ではないので、他に仕事を持ちながら、自習室の管理・運営にあたることになり多忙を極める。LL自習室専属のスタッフを最低でも1名は付けるべきである。

4 課題と展望

学生のアンケート結果や大学視察の成果から、LL自習室の課題が、明確になった。この課題を克服することによって、LL自習室のシステム化がはかれると考える。

課題の一つは、学生にLL自習室利用法が、明確になっていないことである。二つめは、学生が語学習得のための動機・目標を明確にしていないことである。三つめは、スタッフの問題である。また、四つめは、機器の充実の問題である。これらの課題が克服されれば、学生の自主的なLL自習室利用が可能となると考える。

第一の課題解決については、アンケート調査のまとめのところでも述べたように、年度当初のオリエンテーションに加え、あらゆる機会を捕らえて、LL自習室利用法を学生に教えることである。そのために、LL事務室としては、利用法に関する手引書のようなものを作る必要がある。視察した各大学のように「LL通信」のような広報誌も有効である。

第二の課題解決については、英語検定・TOEFL・TOEICなどの資格試験を本学で受験可能にすることがあげられる。それぞれの試験が、すべて宮崎の地において、受験可能とは限らない。そうした立地的不利を、本学での受験を可能にすることによって克服でき、かつ受験者の増加が期待できる。

本学の就職戦線を考えるときに、資格(特に英語検定・TOEICなど)の強みを発揮できるのではないかと。また、TOEFL試験の実施では、学生の海外留学の夢を実現する手立ての一つになるのではないかと。

そのような資格試験の本学での実施によって、学生の目標を明確化することができると思う。

LL自習室との関連において述べるならば、LL実習という形で、各資格試験の学習の手助けができる。そのためには、各資格試験の学習のできるソフトウェアを揃える必要がある。

LL実習という形式を採るならば、他大学が実施しているように、学生実習生（アルバイト）の養成も必要になると考える。将来、教員を目指すような学生から選抜し、実習生を養成するのである。スタッフに関わる問題になるが、予算措置も当然ながら必要になってくる。

ここで大切なことは、学生が目標を持つことによって、自主性を発揮させることである。自主性を持ったLL自習室の利用は、LL自習室が持つ意義が本来のものになるということだ。

そして、学生が自由に利用できるということを考えるとき、開室時間の問題が出てくる。視察した公立大学では、授業期間の開室時間は午前9時30分から午後9時というところもあった。ここにも当然、スタッフに関する問題と予算の問題が絡んでくるが、開室時間の延長も将来の課題事項であろう。

こうしてみると第三の課題は、スタッフに関わる問題である。再三述べることになるが、これには予算問題があるので、すぐに解決ということにはならないが、LL自習室をライブラリーシステム化するうえで、避けて通れない問題である。

ライブラリー化するには、貸出し業務に携わるスタッフ、ソフトの選定・購入・管理に携わるスタッフ、機器の取り扱いに携わるスタッフなど、多数のスタッフが必要になる。大規模な大学では、実現可能なことであろうが、本学のように比較的小規模な大学では、一人が何役も兼ねることになり、一人にかかる負担はどうしても大きくなる。一刻も早い予算措置の実現と人材確保が必要である。

第四の課題として、機器の充実があげられる。LL自習室に数多くの機器が設置されることになれば、学生にとって理想的な環境といえるものになる。そうなれば、それだけで学生を引きつける要因となり得るであろう。大学視察のところで述べたように、学生が機器を自由に操って、自作の教材や自主制作ビデオ（もちろん語学教育に関するものだが）などを製作することにより、自主性を養い、語学習得の喜びを得ることもLL自習の一つの在り方かもしれない。

本稿では、LL自習室を、オーディオ教材・ビデオ教材の利用に限ったものとして論じてきたが、将来的構想として、数は少なくとも、CALLシステムを導入することによって、LL自習の幅が広がりを持つことにもなる。時代の趨勢は、CALLシステムに傾きつつある。かといって、これまでのLLシステムにも、数多い利点があり、CALL一辺倒になるとは、考え難い。LLシステムとCALLシステムとが共存し、互いに補完しながら進んでいくと考えられる。語学自習ということを考えていくうえで、どちらのシステムも必要ではないか。語学学習の発達基地としての語学センター的要素を兼ね備えたLL自習室がライブラリーシステム化の一つの将来像として考えられる。

本研究は、本学のライブラリーシステム化という大風呂敷を広げた研究で、到底私などの手に負えるものではないが、どこまで進めることができたであろうか。これからのLL自習室の充実の一つでも役立てばと思う。

最後になったが、本研究は、笹谷教授の助言・指導を受けながら、宮崎学術振興財団の助成金を受け進められたことを明記し、感謝するものである。また、LL事務室の矢野さんにも、アンケートの集計など多大な協力をしていただいたことに、この場を借りて、感謝するものである。

参考資料

<アンケート1>

英語（特にLL）に関するアンケート

学生番号 _____ 名前 _____

回収総数 159 / 212

これは、LLの授業やLL自習室をより充実したものにするためのアンケートです。真剣に教えてください。アンケート回答の方法は、各質問の選択肢の番号に○をつけるか、日本語で教えてください。

質問1 中学校時代に、LL教室がありましたか。

1. はい 44 (28%) 2. いいえ 105 (66%) 3. よく分からない 10 (6%)

質問2 質問1で、「はい」と答えた人に、尋ねます。

・中学校時代にLL教室を使ったLL授業がありましたか。

1. はい 25 (56%) 2. いいえ 19 (44%)

・質問2で「はい」と答えた人は、以下の質問ア、イ、ウにも教えてください。

ア) 中学校何年生のときにLL教室でのLL授業がありましたか。(複数回答可)

1. 一年生 15人 2. 二年生 16人 3. 三年生 14人 4. その他、具体的に 2人 (ESSなど課外授業で)

イ) 中学校時代にLL教室でのLL授業はどのくらいありましたか。

(1~3に○をつけ、回数を算用数字で書いてください。)

一年次	二年次	三年次	その他
1. 週に ___回	1. 週に ___回	1. 週に ___回	
2. 月に ___回	2. 月に ___回	2. 月に ___回	
3. 学期に ___回	3. 学期に ___回	3. 学期に ___回	

- | | | | |
|-------------|------------|-----------|-------------------------|
| 1. 週1 5人 | 1. 週1 7人 | 1. 週1 3人 | ・部活
・毎週あったが回数は覚えていない |
| 週2・3 1人 | 週1・2 1人 | 週3 1人 | |
| 週3 1人 | 週3 1人 | 週5 1人 | |
| 週3・4 1人 | 週5 1人 | | |
| 週5 1人 | | | |
| 2. 月2・3 1人 | 2. 月2・3 1人 | 2. 0人 | |
| 3. 学期1・2 1人 | 3. 学期1 1人 | 3. 学期1 2人 | |
| 学期2 2人 | 学期1・2 1人 | 学期1・2 1人 | |
| 学期5 1人 | 学期5 1人 | 学期2 2人 | |
| | | 学期5 1人 | |

ウ) 中学校時代のLL授業はどのようなものでしたか。また、授業以外でLL機器を利用したことのある人は、どのような使い方をしましたか。具体的に、説明してください。

- 1) カセットテープを使った授業 17
2) ビデオ 9
3) 普通の授業 1

質問3 (全員に) 中学でのLL授業は、必要と思いますか。

1. 絶対に必要である 25 (16%)
2. あった方がよい 117 (73%)
3. どちらでもよい 12 (8%)
4. なくてもよい 4 (3%)
5. 絶対に無くすべきだ 1 (0%)

質問4 質問3の回答の理由を書いてください。

*回答をまとめると次のように大別できる。

- 1) 必要である・あった方がよい
 1. 早くから聞いて耳を慣らすため(目的意識が漠然とした回答) 48人(30%)
 2. 正しい発音を身に付けるため・話す能力の育成のため 24人(15%)
 3. 受験英語ができて、実際に使えないから(役に立たないから) 23人(14%)
 4. リスニングの力を付けるため(発話を意識している回答) 18人(11%)
 5. その他 15人(9%)
- 2) どちらでもよい
(時間的余裕があれば) できればしたほうがよい 7人(4%)
- 3) 不要 2人(1%)
 1. 役に立たないから(LLの授業経験あり)
 2. 入試制度のもとでは負担であるから

質問5 高校時代に、LL教室がありましたか。

1. はい 86 (54%)
2. いいえ 66 (42%)
3. よく分からない 6 (4%)

質問6 質問5で、「はい」と答えた人に、尋ねます。

・高校時代にLL教室を使ったLL授業がありましたか。

1. はい 34 (40%)
2. いいえ 52 (60%)

・質問6で「はい」と答えた人は、以下の質問エ、オ、カにも答えてください。

エ) 高校何年生のときにLL教室でのLL授業がありましたか。(複数回答可)

1. 一年生 16人
2. 二年生 13人
3. 三年生 10人
4. その他、具体的に 3人(映画を見るため、課外活動で)

オ) 高校時代にLL教室でのLL授業はどのくらいありましたか。

(1~3に○をつけ、回数を算用数字で書いてください。)

一年次	二年次	三年次	その他
1. 週に ___回	1. 週に ___回	1. 週に ___回	
2. 月に ___回	2. 月に ___回	2. 月に ___回	
3. 学期に ___回	3. 学期に ___回	3. 学期に ___回	

- | | | | |
|-----------|-----------|-----------|---------|
| 1. 週1 8人 | 1. 週1 6人 | 1. 週1 3人 | ESS 2人 |
| 週2 3人 | 週2 5人 | 週2 4人 | 年1 1人 |
| 週3 1人 | | 週3 2人 | 年2 1人 |
| 2. 月1 3人 | 2. 0人 | 2. 0人 | 年5・6 1人 |
| 3. 学期1 1人 | 3. 学期1 1人 | 3. 学期1 2人 | |
| 学期2 1人 | 学期4 1人 | | |

カ) 高校時代のLL授業はどのようなものでしたか。また、授業以外でLL機器を利用したことがある人は、どのような使い方をしましたか。具体的に、説明してください。

1) カセットテープを使った授業	22
2) ビデオ	11
3) その他(AETの授業など)	11

質問7 (全員に) 高校でのLL授業は、必要と思いますか。

1. 絶対に必要である	45 (28%)
2. あった方がよい	95 (60%)
3. どちらでもよい	13 (9%)
4. なくてもよい	5 (3%)
5. 絶対に無くすべきだ	1 (0%)

質問8 質問7の回答の理由を書ってください。

*回答をまとめると次のように大別できる。

1) 必要である・あった方がよい	
1. 実用英語を習得するため	40 (25%)
2. リスニングの力をつけるため(はっきりした目的意識・発話を考えている)	36 (23%)
3. 正しい発音を身に付けるため	22 (14%)
4. 入試・英検に有利・必要であるため	8 (5%)
5. 授業が楽しくなるから、AETと話せるようになるため	8 (5%)
6. 英語に不可欠	8 (5%)
2) どちらでもよい	
1. 受験の方が優先するが、あるにこしたことはない	5 (3%)
3) 不要	
1. 受験勉強の方が優先(あれば、学生にとって大きな負担になるから)	10 (6%)
2. 役に立たない	2 (1%)

質問9 大学でのLL授業は、必要と思いますか。

1. 絶対に必要である	77 (49%)
2. あった方がよい	72 (45%)
3. どちらでもよい	8 (5%)
4. なくてもよい	2 (1%)
5. 絶対に無くすべきだ	0 (0%)

質問10 質問9の回答の理由を書ってください。

*回答をまとめると次のように大別できる。

1) 必要である・あった方がよい	
1. 実用英語を習得するため	75 (47%)
・社会に出て役立つから、就職に役立つ	63
・将来英語を生かせる仕事に就くため	4
・将来外国人との交流は避けられない	7
・外国へいったとき役に立つ	1
2. リスニングの力をつけるため(はっきりした目的意識・発話を考えている)	28 (18%)
3. 正しい発音を身に付けるため	23 (14%)
4. 英語の学習には必要不可欠であるため	17 (11%)
5. その他	4 (3%)

- | | |
|--------------------------|--------|
| 2) どちらでもよい | 3 (2%) |
| 1. 必要な人もいるので、あるにこしたことはない | |
| 2. あれば何かの役に立つだろう | |
| 3) 不要 | 2 (1%) |
| 1. 発音は実際の会話の方が覚えやすい | 1 |
| 2. 楽しくない | 1 |

質問11 LL自習室の利用について

- | | |
|------------------------|----------|
| 1. 積極的に利用している | 26 (16%) |
| 2. 必要に迫られて(宿題等に)利用している | 93 (60%) |
| 3. 一度も利用したことがない | 37 (24%) |

- 質問12 LL自習室を週に何回利用していますか。 週に _____ 回
- | | |
|---------|----------|
| 1. 無回答 | 44 (27%) |
| 2. 0~1回 | 6 (4%) |
| 3. 1回 | 84 (53%) |
| 4. 1~2回 | 8 (5%) |
| 5. 2回 | 15 (9%) |
| 6. 2~3回 | 1 (1%) |
| 7. 3回 | 1 (1%) |

質問13 LL自習室の一回についての使用時間はどのくらいですか。 一回に _____ 分

- | | |
|------------|----------|
| 1. 無回答(0) | 43 (27%) |
| 2. 0~30分 | 14 (9%) |
| 3. 30~60分 | 48 (30%) |
| 4. 60~90分 | 39 (25%) |
| 5. 90~120分 | 8 (5%) |
| 6. 120分 | 2 (1%) |

質問14 外国人講師による授業、またはLLの授業と、LL自習室での学習を行うことを、お互いに関連づけて考えていますか。

- | | |
|---------------------------|----------|
| 1. 意識して関連づけている | 17 (11%) |
| 2. 意識はしていないが、関連づけているように思う | 90 (57%) |
| 3. どちらとも言えない | 42 (26%) |
| 4. 関連づけていない | 10 (6%) |
| 5. その他、具体的に書いてください | 0 (0%) |

質問15 LL自習室では、主にどんな自習をしていますか。具体的に書いてください。また、LL自習室をこれからどのように利用してみたいと思いますか。考えや希望を具体的に書いてください。

- 1) どんな自習をしているか
- | | |
|-------------|----|
| 1. 宿題 | 92 |
| 2. ビデオ(映画) | 22 |
| 3. 授業の予習・復習 | 8 |
| 4. その他 | 4 |

2) どのように利用したいか

1. ビデオ（洋画）を見る	59
2. 積極的に利用したい	14
3. 発音のチェック	7
4. リスニング・英語に慣れる	6
5. 宿題	5
6. 授業の復習	3
7. 各種英会話教材	3
8. 音楽を聞く	2
9. その他	4

質問16 LL自習室をもっと利用するためにどのようなことが、必要だと思いますか。また、現在LL自習室を利用するのに不便だと思われることがあれば、具体的に書いてください。

質問17 これから自習室を楽しく利用するためにどんなことでもよいので書いてください。

*質問16・質問17の回答はまとめた形で集計した。

1) 施設・設備に関する要望

1. 座席数を増やして欲しい	19
2. 自習室のテープレコーダーにスピード調節機能がない	7
3. ビデオデッキを増やして欲しい	5
4. 部屋が狭い	4
5. ビデオ・LDを複数で見れるようにして欲しい	3
6. その他	14
・ブースに電気をつけて欲しい	
・消しゴムカスを入れるゴミ箱が欲しい	
・部屋に英語のポスターをはって明かるくする	
・LL教室も開放して欲しい	

2) ソフトに関する要望

1. ビデオソフトの数・種類を増やして欲しい	41
2. オーディオソフトの数・種類を増やして欲しい	25
3. CNN, FEN, 衛星放送などを視聴できるようにして欲しい	6
4. ソフトの貸し出しをして欲しい	5
5. ソフトを充実して欲しい	4
6. ソフトのリストを作って欲しい	3
7. 収納棚に鍵がかかっている、自由に取れない	1

3) その他

1. 開室時間を延ばして欲しい（昼休み・18時まで・土・日開放）	20
2. 学生の自主性・積極性に任せるほかない	14
3. 利用時間が集中して、利用できない	5
4. 他の外国語も学べるようにして欲しい	4
5. 聞き取りのアドバイスをして欲しい	1

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。LL事務室では、これからラジオやテレビの英語講座や映画のビデオなどのソフトウェアも充実させていくつもりですので、積極的にLL自習室を利用して英語の能力を高めることに活用してください。

<アンケート2>

QUESTIONNAIRE 2

回収総数：138/212

質問1 今までに、家庭においてラジオやテレビの語学番組を利用したことがありますか。

1 はい 80 (58%) 2 いいえ 58 (42%)

あ)「はい」と答えた人は、具体的にどんな番組を利用していましたか。

基礎英語	25 (31%)
ラジオ英会話	22 (28%)
続基礎英語	15 (19%)
セサミストリート	11 (14%)
英会話	10 (13%)
上級基礎英語	8 (10%)
その他	23 (29%)

*複数回答あり

質問2 現在、ラジオやテレビの語学番組を利用していますか。

1 はい 20 (14%) 2 いいえ 118 (86%)

い)「はい」と答えた人は、具体的にどんな番組を利用していますか。

ラジオ英会話	8 (40%)
英会話	6 (30%)
マーシャの英会話	2 (10%)
セサミストリート	2 (10%)
その他	3 (15%)

*複数回答あり

質問3 現在、あなたが利用できる機器に○を付けてください。(いくつでも)

1 ウォークマン型カセットテープレコーダー	88 (63%)
2 ラジカセ	58 (42%)
3 ラジカセ (CD付)	117 (85%)
4 テレビ	97 (70%)
5 テレビ (2カ国語放送受信可能)	50 (36%)
6 ビデオ	77 (55%)
7 レーザーディスクプレーヤー	8 (5%)
8 (衛星放送用) BSチューナー	23 (17%)
9 WOWOWデコーダー	3 (2%)
10 短波放送用ラジオ	4 (3%)
11 その他	4 (3%)

質問4 上記の機器の中で、特に語学（とりわけ英語）の勉強をするのに、どのような機器を使っていますか。いくつでも、○を付けてください。

1 ウォークマン型カセットテープレコーダー	51 (39%)
2 ラジカセ	31 (22%)
3 ラジカセ (CD付)	94 (68%)
4 テレビ	30 (22%)
5 テレビ (2ヵ国語放送受信可能)	24 (17%)
6 ビデオ	14 (10%)
7 レーザーディスクプレーヤー	1 (1%)
8 (衛星放送用)BSチューナー	9 (7%)
9 WOWOWデコーダー	0 (0%)
10 短波放送用ラジオ	0 (0%)
11 その他	2 (1%)

質問5 LL自習室で利用するとすれば、以下のテレビやラジオの英会話番組のどれを利用したいですか。利用したいものに○をつけてください。(いくつでも)

テレビ		ラジオ	
1 マーシャの英会話	36 (26%)	6 基礎英語	16 (12%)
2 英会話	33 (23%)	7 続基礎英語	11 (7%)
3 英会話	33 (23%)	8 上級基礎英語	17 (12%)
4 やさしい英会話	40 (29%)	9 英会話	49 (36%)
5 セサミストリート	71 (51%)	10 ビジネス英語	13 (9%)
		11 百万人の英語	21 (15%)
その他	4 (2%)		

質問6 英語に限らず、その他利用したいテレビやラジオの語学番組があれば○をつけてください。(いくつでも)

テレビ		ラジオ	
1 ハングル講座	9 (7%)	8 ハングル講座	4 (3%)
2 中国語会話	28 (20%)	9 中国語講座	21 (15%)
3 フランス語会話	28 (20%)	10 フランス語講座	18 (13%)
4 ドイツ語会話	27 (20%)	11 ドイツ語講座	21 (15%)
5 スペイン語会話	19 (14%)	12 スペイン語	15 (11%)
6 イタリア語会話	18 (13%)	13 イタリア語講座	13 (9%)
7 ロシア語	12 (9%)	14 ロシア語講座	5 (3%)
その他			

質問7 英語検定やTOEFL, TOEICなど各種の英語資格試験を受ける予定がありますか。

予定があれば、該当のものに○を付けてください。

もし選択肢の中になければ、その他のところに具体的に書いてください。

1 英語検定2級	63 (46%)	7 ケンブリッジ 大学英語検定	0 (0%)
2 英語検定準1級	27 (20%)	8 通訳技能検定試験	1 (1%)
3 英語検定1級	11 (7%)	9 商業英語検定試験	0 (0%)
4 TOEFL	25 (18%)	10 工業英語能力検定試験	0 (0%)
5 TOEIC	20 (14%)	11 観光英語検定試験	3 (2%)
6 国連英語検定	7 (5%)	12 その他	0 (0%)

質問8 LL自習室に、どのような語学教材テープやビデオソフト、雑誌を望みますか。
入れてほしいものを書いてください。

VTに関するもの	11 (8%)
・映画を増やして欲しい	
・CC付きVT	
・字幕なしのVT	
・外国人アーティストのコンサートVT	
・'60~'70年代のアメリカ映画	
・アメリカのホームコメディ	
・大草原の小さな家VT (字幕付き)	
教材	8 (6%)
・アカデミー出版の「家出のドリッピー」 「コインの冒険」	
・シドニー・シェルダンのイングリッシュアドヴェンチャー	
・スーパーエルマーVOA, CBS	
・英検・TOEFL・TOEICなどの教材、テープ	
・イングリッシュ エクスプレスの雑誌とテープ	
・ヒアリングマラソン	
・簡単な英会話教材	
英語以外	4 (3%)
・ヨーロッパの言語、フランス語、ヒンディー語など	
音楽	2 (1%)
・洋楽のCD (歌詞を覚えるのも楽しいし、身に入ると思うから)	
雑誌など	4 (3%)
・留学ジャーナル	
・アサヒウイークリー	
・マンガ	

質問9 その他、LL自習室への要望があれば、自由に書いてください。

- ・CS放送が見れるようにして欲しい (CNNが見たいということではないか)
- ・ヨーロッパの言語が学べるようにして欲しい
- ・ビデオソフトを家に持ち帰る貸し出しをしてほしい
- ・普段、学生が個人で手に入らないものを入手して欲しい
- ・6時まで開けておいて欲しい
- ・自習室内では静かにして欲しい
- ・LLクイズが難しすぎる

* LL自習室で、座席が足りない場合は、LL教室の開放も考えています。

* 現在、the English Journalの雑誌とテープを入れています。利用可能。

参考文献

- 1)九州LL研究会「学習者は何を求めているか—魅力あるLL自習を目指して—1, 2」, ソニーLL通信, 170-171号, 1993。
- 2)「The Proceedings of The Second International Conference on Foreign Language Education And Technology」, LLA & IALL, 1992。
- 3)「西南学院大学語学ラボラトリー資料目録」, 西南学院大学語学ラボラトリー編, 1988。
- 4)「西南学院大学LLnews」, 47号(1992), 48号(1993), 西南学院大学語学ラボラトリー。
- 5)「同志社女子大学ライブラリーニュースCARILLON」no.1, 同志社女子大学図書・情報センター資料サービス課, 1993。
- 6)語学ラボラトリー学会(LLA)「第33回全国研究大会発表要項」, 1993。
- 7)「視聴覚資料目録—1978年3月末現在」, 同志社大学オーディオ・ルーム, 1978。
- 8)「視聴覚資料目録—1978年4月～1992年7月」, 同志社大学学術情報センター視聴覚室, 1992。
- 9)「購入ビデオリスト アルファベット順」, 同志社大学学術情報センター視聴覚室, 1993。
- 10)「同志社大学学術情報センター 利用案内 田辺校地」同志社大学学術情報センター, 1993。
- 11)「関西学院大学のマルチメディア教育システム」, 関西学院大学総合教育研究室。
- 12)「新しい地平を見つめて—別冊総研ジャーナル」, 関西学院大学総合教育研究室, 1991。
- 13)「総研ジャーナル57」, 関西学院大学総合教育研究室, 1989。
- 14)「英語インテンシブ・プログラム」, 関西学院大学語学研究室, 1993。
- 15)「視聴覚室資料の探し方—カセットテープ・ビデオテープ・LD・CD・レコード・スライドの利用—」, ライブラリーガイドシリーズ4-(3), 関西学院大学図書館
- 16)「大学の概要1993年度」, 神戸市外国語大学, 1993。
- 17)「神戸市外国語大学視聴覚教育施設案内」, 神戸市外国語大学視聴覚教育係
- 18)「視聴覚ライブラリー利用案内」, 神戸市外国語大学視聴覚教育係
- 19)「視聴覚教育研究4～6」, 広島大学総合科学部外国語コースLL委員会, 1989～1991。
- 20)荒巻基文(ソニーランゲージラボラトリー), 「活かして使うLL」, ソニーB&Iマーケット開発部門文教システム営業部LLシステム課, 1988。
- 21)吉田政幸, 「分類学からの出発 プラトンからコンピュータへ」, 中公新書, 1993。

